

## 1

## 三菱ガス化学株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● 三菱ガス化学グループはグループビジョンとして「社会と分かち合える価値の創造」を掲げ、気候変動問題の解決を経営として取り組むべき最重要課題(マテリアリティ)の一つに位置付ける。</li><li>● 気候変動の抑制に貢献するため、サプライチェーン排出量の算定・公表およびサプライチェーンと協働した取り組みが必要であると認識する。</li></ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 統合報告書およびウェブサイト上で情報を公表する。</li><li>● ステークホルダーとの情報共有のために利用する。</li><li>● GHG排出削減活動の立案および成果測定に利用する。</li></ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● 算定結果を開示することで、ステークホルダーとの情報共有が一段と進む。</li><li>● より適切なGHG排出削減活動が立案できる。</li><li>● 地球温暖化による事業へのリスクおよび収益拡大につながる新製品・新事業への評価をより適切に実施することが可能となる。</li></ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 部門横断型組織であるGHG対策チームを設置している。</li><li>● このチームが各部署から必要なデータを収集する。</li><li>● 具体的には、主管部署を通じて、社内システムなどからデータを得る。</li></ul>

## 2

## 三菱ガス化学株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン排出量のうち、カテゴリ1「購入した製品・サービス」が過半を占め、特に海外から調達した原料および商品がその大部分である。カテゴリ1の削減につながる原料サプライヤとの協働に取り組む。</li><li>● 低炭素エネルギー、低炭素原料を社会に供給するため、地熱発電事業の拡大、カーボンリサイクルメタノールの実現に向けた研究、バイオマス原料の活用にも取り組んでいる。</li></ul>
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 海外における排出量を算定するに際し、排出原単位を入手できない場合が多く、排出量の精度向上の障害となっている。</li><li>● 購入した原材料の原単位に公開データベースの値を使用しているため、サプライヤとの協働による原材料の原単位削減への取り組みがScope3算定結果に反映されない。</li></ul>
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 昨年度報告との比較を可能にするため、本報告では算定範囲を親会社のみとしたサプライチェーン排出量を報告する。グループ会社を含めたScope3排出量は自社Webサイトに掲載中。</li></ul>

## 3

## 三菱ガス化学株式会社

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2020年4月～2021年3月	
	活動量	原単位	
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料の購入量</li> <li>● サービスの購入額</li> </ul>	● SC-DB(※1)、IDEA(※2)	
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資本財の購入額</li> </ul>	● SC-DB(※1)	
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃料、蒸気、電気の使用量または購入量</li> </ul>	● SC-DB(※1)、IDEA(※2)	
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料の調達時輸送量</li> <li>● 製品の出荷時の輸送量(自社荷主分に限る)</li> </ul>	● トンキロ法	
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物の排出量</li> </ul>	● SC-DB(※1)、IDEA(※2)	
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員数</li> </ul>	● SC-DB(※1)	
カテゴリ7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通勤手当の支給額</li> </ul>	● SC-DB(※1)	
カテゴリ8「リース資産（上流）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 借用建物の床面積</li> </ul>	● SC-DB(※1)	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品の出荷時の輸送量(自社荷主分を除く)</li> </ul>	● トンキロ法	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 把握困難であるため算定対象から除外		
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 把握困難であるため算定対象から除外		
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品の販売量</li> </ul>	● SC-DB(※1)、IDEA(※2)	
カテゴリ13「リース資産（下流）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貸与物件のエネルギー使用量</li> </ul>	● 温対法排出係数	
カテゴリ14「フランチャイズ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当する活動なし</li> </ul>	● —	
カテゴリ15「投資」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 投資先のScope1+2排出量</li> </ul>	● —	
「その他」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当なし</li> </ul>	● —	

※1 サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)

※2 LCIデータベース IDEA version 2.3

# 4

## 三菱ガス化学株式会社

### サプライチェーン排出量算定結果

● サプライチェーン排出量

